

第5回
新型コロナウイルス感染症の
感染動向の推移を評価する打合せ会
専門家の意見

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見①

新型コロナウイルス感染症患者の増加が続いています。変異株分析では、デルタ株(インド株)が**76.5%**に至り、ほぼ置き換わる勢いです。

40歳台50歳台を中心に重症者がでていますが、**20歳台**にも**60歳以上**にも重症化する人がいます。

繁華街の人流は高い状態が続いています。減っている地点もありますが、感染拡大を抑えるには不十分です。

ワクチン接種率は確実に増加しています。これは、とてもよい情報です。

現在の新型コロナウイルス感染症の流行をみると、まだピークに達していないようで、今後も増加することが危惧されます。しかし、病床利用率は既に**70%**に達しています。これは、極めて危険なレベルです。**30床**のコロナ病床があれば**21床**が埋まっている状態です。多くは酸素療法を要する呼吸不全合併患者ですので、相当な医療資源（人、医療機器）が投じられていることをご理解ください。

デルタ株は、感染力が強く、病原性も強いことが推測されています。いまの感染状況は、災害レベルです。通常の医療を制限して、コロナ診療に医療資源を投入している状況です。第1波から第4波まで、有効であった手段は人流の抑制です。

ワクチンの効果が現れるまでには時間を要します。この点を理解し、不要不急の外出を自粛することが必要です。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②

現状の評価と今後の見通し

- ・他の関東圏の地域と同様に、千葉県内での感染者数の増加は続いている。
- ・現在がピークとは考えにくく、お盆休みのヒトの移動の影響を受けて、更に増加する可能性が高い。
- ・新規感染者の90%以上を50代以下の患者が占めている。
- ・入院患者に占める高齢者の割合は依然低く、ワクチンの有効性が非常に高いことが示唆される。
- ・重症患者用の入院病床は実質満床の状態であり、中等症患者が悪化した際の受け皿がない状態になっている。
- ・自宅待機患者が激増しており、自宅からの救急要請が増えているが、入院先が見つからず、救急車が長時間立ち往生するような事態が頻繁に発生している。
- ・現在起きていることは、見えにくい大災害であり、この状況が続けば、一般医療の提供に甚大な悪影響を及ぼすことが予想される。

必要な対策

- ・救急搬送困難事例や在宅での死亡事例を公表し、一般住民に対して災害状況であることを伝え、感染者を減らすための更なる協力を依頼する。
- ・流行の中心である若年層に響くように、具体的なメッセージ（普段生活を共にしていないヒトとの接触を避ける、マスクを着用せずに近距離で会話しない）を適切な媒体で伝える。
- ・お盆休み期間中の人流を減らして、感染拡大をピークアウトさせる。
- ・酸素投与が不要で退院可能な場合には、療養解除期間前でも速やかに自宅療養に切り替え、利用可能な病床を入院優先度の高い患者のために使用する。県民に、非常事態下における優先順位をつけた入院調整、早期退院の方針を理解してもらう。
- ・パルスオキシメーターの配布、在宅酸素導入の準備、入院待機酸素ステーションの設置、ホテルでの酸素投与、投薬体制の整備等、急増する在宅、ホテル療養患者のケアを行う仕組みを早急に整備する。
- ・高齢者だけでなく、若い世代にワクチン接種を行うことが、流行拡大抑制に有効と考えられるため、可能な限り速やかにワクチン接種を進める。